

## 愛玩鳥を始めとした動物におけるクラミジア感染症の調査研究

研究分担者 福士 秀人 岐阜大学 応用生物科学部  
研究協力者 オブライエン 悠木子 東京農工大学 農学研究院 動物生命科学部門  
研究協力者 宇根 有美 岡山理科大学 獣医学部  
研究協力者 小野 文子 岡山理科大学 獣医学部

**研究要旨：** 愛玩鳥を含め動物におけるクラミジアの保有状況を調査した。輸入鳥類の糞便からクラミジア遺伝子は検出されなかった。野外の鳥類では野生化したワカケホンセイインコからオウム病クラミジア遺伝子を検出し、培養細胞を用いてオウム病クラミジアも分離できた。動物園飼育鳥類では、1/2の動物園で陽性例が見いだされたが、化学療法の実施により陰性化が確認された。引き続き保有状況を調査し、オウム病予防に向けた注意喚起を行う必要がある。

### A. 研究目的

これまでの調査研究により、愛玩鳥及び愛玩動物（ネコ）におけるクラミジア感染症のリスクは継続していることが明らかとなった。このリスクの認識に基づいた対策を行い、その効果を検証するために、愛玩鳥、伴侶動物及び野鳥における病原性クラミジアの保有状況を継続的に調査し、動物飼育者におけるリスク評価を行う。併せて、オウム病クラミジアの検出やオウム病の診断における問題も明らかになったことから、迅速簡易診断法及び予防法に関する基礎的研究を行い、愛玩動物飼育におけるリスク低減に向けた取り組みの基盤形成を行う。

### B. 研究方法

1. 愛玩鳥、野鳥および動物園飼育鳥類におけるオウム病クラミジアの保有状況調査： 輸入鳥糞（アルゼンチン由来鳥3検体、タンザニア由来鳥1検体、ペルー由来鳥2検体）、ハト糞6検体、野生化ワカケホンセイインコ66検体、動物園飼育鳥類（施設A 99検体、施設B 48検体）からDNAを抽出した。PCRによりオウム病クラミジアDNAの検出を行なった。増幅産物の塩基配列を解読し、同定した。

（倫理面への配慮）

鳥類の糞便採取において侵襲はなく、適切な採取を行った。

### C. 研究結果

1. 愛玩鳥、野鳥および動物園飼育鳥類におけるオウム病クラミジアの保有状況調査： （1）輸入愛玩鳥についてオウム病クラミジアの保有状況を調べたところ、全て陰性であった。（2）野外の鳥類におけるオウム病クラミジアの保有状況を調べたところ、野生化したワカケホンセイインコ66検体中3検体からオウム病クラミジアが検出され、培養細胞を用いてオウム病クラミジアを分離することができた。（3）動物園飼育鳥類に

おけるオウム病クラミジア保有状況を調べたところ、施設Aの99検体は全て陰性であったが、施設Bでは48検体中2検体からオウム病クラミジアが検出された。オウム病クラミジアが検出された個体は化学療法が施され、追跡検査において陰性が確認された（4）迅速簡易診断法及びオウム病クラミジア予防のための基礎的研究として野外分離株の培養を行なった。

### D. 考察

昨年度と同様に、今年度も輸入愛玩鳥からクラミジア遺伝子が検出されず、検査検体数は少ないがクラミジア保有率は高くはないことが推察された。

野生化したワカケホンセイインコからオウム病クラミジアが検出、分離されたことから、感染源としてのリスクが考えられた。市民への情報提供や継続した調査が必要であると考えられた。

動物園飼育鳥類からはほとんどオウム病クラミジアは検出されず、適切な管理が行われている。一部の施設ではオウム病クラミジア感染が検出されたが、野外から何らかの伝播経路により侵入したと考えられた。オウム病クラミジア検出後、適切な治療により陰性となった。また、飼育者の健康にも問題はなかった。定期的な健康診断の成果であると言える。

オウム病の発生は年間10例前後で推移しており、必ずしも大きな問題とはなっていないが、時折、事業所などで集団発生が起きている。今後も継続した保有状況調査を行い、市民へ情報提供することにより、オウム病の予防に務める必要がある。

### E. 結論

輸入愛玩鳥からクラミジアは検出されなかったが、国内の野生化した鳥類や動物園飼育施設の鳥類からオウム病クラミジアが検出された。引き続き保有状況を調査し、オウム病予防に向けた注意喚起を行う必要がある。

## G. 研究発表等

### 1. 論文発表等

(1) Sassa-O'Brien, Y., Ohya, K., Yasuda-Koga, S., Chahota, R., Suganuma, S., Inoue-Murayama, M., Fukushi, H., Kayang, B., Owusu, E.H., Takashima, Y. Chlamydial species among wild birds and livestock in the foothills of Mt. Afadjato, Ghana. J. Vet. Med. Sci. 84(6) : 817-823, 2022

### 2. 学会発表等

(1) オブライエン悠木子、松永聡美、大屋賢司、

福士法子、福士秀人. 野生化したワカケホンセイインコの群における*Chlamydia psittaci*の検出と分離. 第39回日本クラミジア研究会 2023年2月25日, WEB開催

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

### 2. 実用新案登録

### 3. その他

なし